

目指す学校像	人間尊重を基盤とし、豊かな心とたくましい体を持ち、自ら学びを創造する子どもの育成
--------	--

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化・探究化の推進による主体的・対話的で深い学びの実現、授業改善 2 教育支援、相談体制の充実、教育環境の整備による安心・安全な学校づくりの推進 3 コミュニティ・スクールとしての取組の推進 4 教職員が心身ともに健康で自信と責任をもって働ける職場環境(Well-being)の整備
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数とも全国、市の平均正答率と比べ概ね同程度の結果である。無回答率が低いことから、粘り強く取り組む姿勢が見られる。しかし、市の平均正答率を大きく上回る領域や観点が見られない。 ○市の「児童生徒の端末活用状況」調査では、「ICT 機器をどの程度活用したか」の質問項目について「ほぼ毎日」の回答が市平均を上回っている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査、市の学習状況調査では、例えば国語の敬語の使い方など、基礎的基本的な事項の設問について課題が見られる。 ○全国学力・学習状況調査では、「国語、算数の勉強が好き」の割合の結果から、学習に対する意欲や関心の面で課題が見られる。	・学びの自律化・探究化に向けた情報端末の活用 ・学ぶ楽しさを味わうことができる探究的な学びの推進、授業改善	①国語、算数について、ICT 機器等を活用し、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を推進し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ②市の授業アンケートの取組について、児童の記述に基づき、児童の学習状況を把握し、一人ひとりの状況に応じた指導支援を実施する。 ①各教科において、「課題設定」「見通し」と「振り返り」の学習活動を取り入れ、「探究的な学び」の推進に資するよう授業改善を図る。 ②地域(3年)、福祉(4年)、プログラミング教材(5・6年)を核とし、STEAMS教育やSDGSと関連付けた探究的な学びを推進する単元を創造し、実践する。	①全国や市の学習状況調査において、「知識・技能」の観点が平均を上回ることができたか。 ②学校自己評価アンケート「めあてをもって取り組む」に係る項目において肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ①学校自己評価アンケート「探究的な学び」に係る項目において肯定的に回答する割合が80%以上となったか。 ②今年度の実践を振り返り、次年度に向けて課題を洗い出し、次年度の年間指導計画作成に生かすことができたか。					
2	(現状) ○学校自己評価アンケートの結果から、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした割合は、それぞれ児童85%、保護者82%であった。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる事故は発生していない。 (課題) ○昨年度、30日以上欠席した児童数が42名であり、一昨年度に比べて増加した。保護者と連携を図れていない児童はいないが、より一層連携を密にして、不登校傾向にある児童の思いや考えを受け止め、支援の充実を図ることが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うことに加え、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくめるよう、児童自らが考えられる学習活動を展開することが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全で整備された教育環境の提供と児童の安全意識の向上	①教育相談・特別支援教育に係る校内委員会にてICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ②「Sola る一む」(校内教育支援センター)について、地域・保護者の学習ボランティアの協力と協力連携を図りながら円滑に運用し、不登校傾向にある児童に学びの場所を提供する。 ①安全点検(日常・毎月)と迅速な修繕(学校対応概ね1週間以内)を基盤に安全な教育環境整備を進める。 ②通学班会議・一斉下校・交通安全教室・自転車運転免許講習【交通】、避難訓練・引渡訓練【防災】、安心教室【防犯】、ケータイ・スマホ安全教室【情報モラル】、けがマップ作成【生活】、ASUKA モデル【生命】等、児童が自らの安全について主体的に考える学びを充実する。	①学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②研修会を実施し、学習ボランティアに対する理解を促進し、「Sola る一む」を利用した児童が教室に復帰することができたか。 ①学校自己評価アンケート「教育環境」に係る項目において、肯定的に回答する割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価アンケート「健康・安全」に係る項目において肯定的に回答する割合が90%以上となったか。					
3	(現状) ○登下校の見守り活動や読み聞かせなど、自治会・育成会・PTAを中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、学校応援団(地域学校協働活動)の活動が長年に渡り実施されている。 (課題) ○学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールとしての取組推進」の項目で、100%の教職員が肯定的な評価を回答していることが課題である。 ○学校運営協議会等において、地域のよさや強みを生かせる教育活動は何かを熟議し、春岡オリジナルな教育活動を展開し、地域のよさを味わえるようにすることが課題である。	・持続可能なコミュニティ・スクールの構築の推進 ・地域の人材や教材を活用した教育活動の推進	①学校運営協議会で熟議を継続し、地域で共有できる持続可能な活動や取組を設定する。 ②コミュニティ・スクールについての情報を随時発信し、保護者、地域、教職員へ周知をするとともに、役割分担を明確にするなど協働しながら取組を推進する。 ①各学年の教育活動において、各1回ずつ地域の教材や人材を活用する場面を計画・実施し、その取組の様子を周知することで、地域・保護者との連携を深める。 ②SSN協議会等において、学校での取り組みを周知し、新たなボランティア活動の設置や既存のボランティアへの参加を呼び掛ける。	①熟議を通して、持続可能な活動や取組を設定することができたか。 ②コミュニティ・スクールだよりを年3回発行して周知するとともに、学校ホームページに「コミュニティ・スクール」の専用ページを新たに開設する。 ①学校自己評価に係る教職員アンケートで「地域の教材や人材が活用されたか」の肯定的に回答する割合が95%以上となったか。 ②ボランティア活動に対する理解が深まり、ボランティアへの参加者数が増大したか。					
4	(現状) ○タブレット端末をはじめとした ICT の活用方法について、学校課題研究主任やエバンジェリストが中心となり研修を重ね、GIGA スクール構想を積極的に推進してきた。 ○教職員一人ひとりの持ち味を發揮しながら、互いに協力し合って教育活動に取り組んでいる。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られることから、誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○教職員が毎日生き生きと子どもたちの教育に取り組めるよう、勤務時間外の時間の活用を工夫することが必要である。	・一人ひとりがスキルアップを図り、力を發揮することができる教職員研修の推進 ・一人ひとりが力を發揮し、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-being)職場環境づくり	①管理職による授業訪問を実施し、年次や経験等に応じて「キャリアナビ」等に基づいた指導助言を行う。初任者研修、年次研修、学校課題研修、教育委員会指導訪問等を活用して教員同士が学び合う場を充実させる。 ②学び続ける教師を目指し、パワーアップ講座の紹介など、自己研修の重要性について、当初面談等において具体的な事例を踏まえながら説明する。 ③企画委員会等において、学期1回程度、業務改善について議題にし、主体的な働き方改革を推進する。	①学校自己評価アンケートの「協力体制のもと学年の指導にあたっていたか」の項目で95%以上となったか。 ②自己評価シートの研修項目でA評価の教職員が80%以上となったか。 ③学校自己評価アンケート「働き方改革」の項目で80%以上となったか。					

